



Mother Lake
Goals

「見える、あなたと私から」

農産普及課 情報

2025
No.251

アグリ高島



表紙

目指すはブドウ生産者！たかしま野菜・園芸塾ぶどうコースの一幕

大豆の青立ち対策	P 2
ブドウ栽培に取り組む仲間を募集中です！	P 2
皆さんの経営を次の世代へ～経営継承を考えよう～	P 3
熱中症をはじめとする農作業事故に注意しましょう！	P 3
表彰受賞者の紹介	P 4

発行 | 高島農業農村振興事務所 農産普及課 令和7年7月発行 / 発行責任者 | 松尾 多希子

住所 | 〒520-1621 高島市今津町今津1758 / TEL | 0740-22-6025～6028 / FAX | 0740-22-3099

大豆の青立ち対策

大豆では、成熟期を過ぎても葉や莢が黄化しない「青立ち」と呼ばれる症状が発生することがあります。令和6年産では、大豆の品種を問わず「青立ち」の発生が多く、収穫皆無のほ場もありました。「青立ち」は、莢葉の生育量に比べて株あたりの莢数や子実量が少ないと発生しやすくなります。莢付が悪く、収量が少なくなる原因は幾つかありますが、令和6年の高島地域では①開花期以降の干ばつ害と②カメムシ類の吸汁害が主と考えられました。

令和6年は、開花が始まる7月下旬～9月の累積降水量が229mmと平年の59%しかなく、また、干ばつ害を助長する最高気温は平年に比べて高く、日照時間は多い状況でした。一方、カメムシ類については、以前は見られなかった「ミナミアオカメムシ」が高島の全域で確認されました。

表 令和6年大豆開花期以降の高島における半旬別降水量、日最高気温、日照時間						
月	半旬	降水量 (mm)	最高気温 (°C)	日照時間 (時間)	月	半旬
		R6	平年	R6	平年	R6
7月	第5半旬	33.0	26.6	32.2	30.2	40.9
	第6半旬	1.5	24.1	33.2	30.9	53.7
8月	第1半旬	0.0	17.2	34.4	31.4	52.2
	第2半旬	0.0	20.0	32.9	31.4	50.0
	第3半旬	0.0	24.7	34.0	31.2	52.5
	第4半旬	14.0	25.9	31.7	31.0	17.8
	第5半旬	85.0	25.5	34.4	30.6	46.8
	第6半旬	48.0	32.7	30.1	30.0	15.4
9月	第1半旬	21.0	29.8	30.7	29.3	31.7
	第2半旬	0.0	31.7	33.1	28.6	45.9
	第3半旬	0.5	33.9	33.4	27.7	40.4
	第4半旬	0.0	33.9	33.8	26.7	38.3
	第5半旬	21.5	31.0	28.6	25.6	24.1
	第6半旬	4.0	29.5	28.8	24.6	18.8
期間		229	387	32.2	29.2	529

干ばつ対策

①根を深く張らすために深く耕します。②地下水を土まで上昇させるためサブソイラー等の鋤で心土を破碎します。③地下水位を上昇させるため、開花し始めたら本暗渠の排水口を閉鎖します。④7日以上雨が降らない場合は畝の高さの半分程度まで通水する畝間灌水を行います。

カメムシ対策

基本的には開花期以降に殺虫・殺菌混合剤を2週間間隔で4回散布します。回数を減らす場合は少なくとも9月上旬と下旬の2回、防除を実施します。

ブドウ栽培に取り組む仲間を募集中です！

高島市内のブドウの生産状況について

高島市の果樹栽培は、古くはカキの産地として、近年ではアドベリーやイチジクの産地として名を馳せてきました。なお、現在市内でブドウは2.6haほどで栽培され面積は増加傾向ですが、直売所をはじめとして市内の消費者需要にはまだまだ応じきれていないのが現状です。

ブドウ栽培希望者向け説明会および現地見学会

「ブドウに興味はあるけど、特別な設備が必要そうで難しそう……」「実際ブドウ栽培ってどんなイメージ？」といった方に向けて、今年度はブドウ栽培に触れるきっかけづくりとして説明会＆現地見学会を開催予定です。開催日や申込先については下枠内を御確認ください。

ブドウ栽培希望者向け説明会および現地見学会（参加費 無料）

開催日時 | ①8月9日（土）9時～12時 ②9月21日（日）13時～16時

集合場所 | 滋賀県高島合同庁舎2階2A会議室（高島市今津町今津1758）

申込方法 | 名前・住所・電話番号・希望する開催日を添えて高島地域農業センター

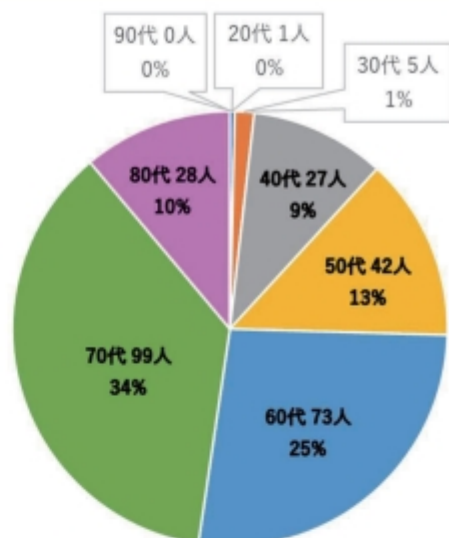
（TEL 0740-25-8151 / FAX 0740-25-8205）あてお申込みください。

※申込時の個人情報は説明会の案内のみに使用し、第三者に提供することはありません。

高島市の農業経営者は、高齢化が進む一方で、若手農業者の参入が少なく、年代が進むにつれて経営者数は減少しており、経営継承が進んでいないのが実態です。

農業が出来なくなってから急いで継承に取り掛かるのではなく、早いうちから余裕をもって計画的に継承を行うことが重要です。

経営継承には様々な類型（親族内継承、従業員継承、第三者継承）があり、ご自分の経営にあった継承を検討することから始めましょう。経営継承の第一歩は後継者を決めること。農業経営者が時間をかけて後継者育成に取り組むことが重要です。経営継承の相談には農業経営支援アドバイザー派遣制度が活用できます。



図：高島市認定農業者年齢別割合
出典：担い手の実態に関する調査（令和6年3月末時点）
高島市データより作成

「農業経営支援アドバイザー派遣制度」

県では、経営継承をはじめ多様な経営課題に対する支援を目的に「しがの農業経営・就農支援センター」を設置し、相談者の課題に応じて様々な分野の専門家を無料で派遣しています。関心がある方は右下のQRコードよりホームページをご覧ください、当課までお問い合わせください。

相談事例

①法人化（税理士、中小企業診断士等）

②経営改善（中小企業診断士等）

③雇用・労務（社会保険労務士）

④経営継承（税理士、中小企業診断士等）



注意：単なる税務相談など、内容によってはアドバイザー派遣が出来ない場合があります

熱中症をはじめとする農作業事故に注意しましょう

昨年、県内では熱中症と思われる農作業中の死亡事故2件や草刈り中の事故13件を含め、38件の農作業事故が報告されています。

今年の夏も猛暑が予想されます。農作業を行う際には熱中症をはじめとした事故に十分注意をしましょう。

予防のポイント

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や涼感速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



熱中症対策アイテム

身体を冷やす

暑い時間帯の作業等が避けられないときに活用



ファン付きウェア、ネッククーラー

1人作業の備え

やむを得ず1人作業をする際のリスクを軽減したいときに活用



ウェアラブル端末、応急セット

環境改善

作業場を涼しくしたり、休憩の質を高めたいときに活用



ミストファン

※農林水産省ウェブサイト

(https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anz/en/attach/pdf/nechu-25.pdf)

熱中症対策パンフレットを加工して作成

表彰受賞者の紹介

岡本 真一 さん 第84回 中日農業賞 優秀賞

岡本真一さんが「第84回中日農業賞 優秀賞」を受賞されました。

岡本さんは、高島市今津町深清水地域を中心に、「水稻+カキ」複合で優良経営を行い、地域のモデル的経営体となっています。また、100年続く「今津柿」の産地をさらに盛り上げたいとの強い思いで、若手農家の中心として産地を牽引され、次世代の模範となっています。

今津町深清水地域を中心に栽培される「今津柿」の若き担い手として、益々の活躍を期待します。



熊谷 健一 さん 令和6年度 滋賀県農林水産表彰 功労賞



熊谷健一さんが「令和6年度 滋賀県農林水産表彰」を受賞されました。

熊谷さんは、昭和55年に就農後、熱心かつ丁寧な栽培管理により地域の農業者の信頼を集め、経営面積は就農時の2haから現在の約44haにまで拡大し地域を代表する経営体となりました。

特に若い農業者への積極的な指導に関われ、県や地域の指導農業士会の要職を歴任されたことで、担い手育成にかかる支援体制の充実と青年農業者の育成に大きく貢献されました。

岡本 瑞希 さん 令和6年度 滋賀県農林水産表彰 奨励賞

岡本瑞希さんが「令和6年度滋賀県農林水産表彰奨励賞」を受賞されました。

岡本さんは、令和2年に施設イチゴ栽培で新規就農され、厳しい気候条件の中、食味の良いイチゴ生産を実現しています。

また、地域集落の農業組合役員としても活動され、集落で取り組まれているイベントの参加者へイチゴを提供するなど地域に根差した活動を展開されています。

今年から新たに滋賀県育成品種「みおしずく」の栽培に取り組まれており、今後益々の経営発展が期待されています。



キラリ高島農業

当課ではFacebook・Instagramによる情報発信を実施しています。今後も高島地域の農業・農村に関わる魅力的な情報を発信してまいりますので、ぜひフォローをお願いします！